

ごみのゆくえ追跡レポート

# 剪定枝葉は どこへ行く!

堆肥になって畑の土に!

長野市全体から1年間に収集される剪定枝葉の量は、5,606トン(H22年度)。専門の処理企業である(株)神山緑地産業と宮澤木材産業(株)に運ばれ、資源化されています。どんなふうになるか、その処理場を見学させていただきました。

もともと土木工事や造園工事などの際に出される材木、あるいは間伐材などを扱ってきた社。長野市で収集される剪定枝葉は、そういった大きな木材に比べると細かく柔らかいので、主に堆肥に利用し、残りは発電用のエネルギーにも使われています。

最初に鉄くずやプラスチックな

どが混じっていないかを分別し、それから破砕機にかけます。処理量は一日約200トン。これを大豆加工時に出土の搾りかすや、土などに混ぜて急速発酵させると、素晴らしい有機肥料ができます。これを農家や一般市民、企業などに使ってもらって野菜作りに活かしているそうです。

「ミニブスの量がすごく多くなるんです。特にレタスやホウレンソウなど葉物にはとてもいいですね」と神山隆弘社長。契約している焼肉店と共同で、遊休農地にサラダ用の畑を作り、お店で働く女性たちともいっしょに野菜作りを始めています。

勝手に庭で火を焚いたり、枝葉を燃やすことができないので、庭の手入れをしたときなど始末に困っていた方も多いと思いますが、枝葉は肥料になって長野市の畑でおいしい野菜を育てていました。安心して資源ごみに出してください。



## 剪定枝葉が堆肥になるまでの流れ

**剪定枝葉の量は年間で約5,600トン!**  
**処理費用(収集運搬費除く)52,600千円!**



「神山緑地」  
神山隆弘社長。  
社長以下、若い  
スタッフががんばっています。



回収された枝葉が運ばれてきます。



バイオマス発電にも使われます。  
(宮澤木材産業)



分別で鉄くずやプラスチックを取り除いた枝葉を、大型の粉砕機で細かくします。エンジンを6割くらいで稼働させているため、意外と静かです。



細くなった枝葉は、堆肥になります。



トマトもとてもおいしいです!



枝葉から作られた堆肥を使って、おいしい野菜が作られていました。